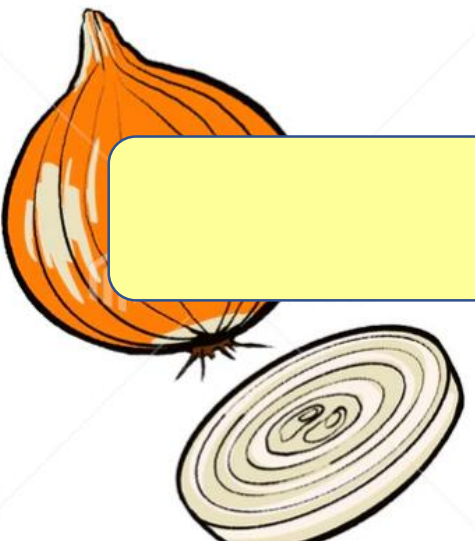
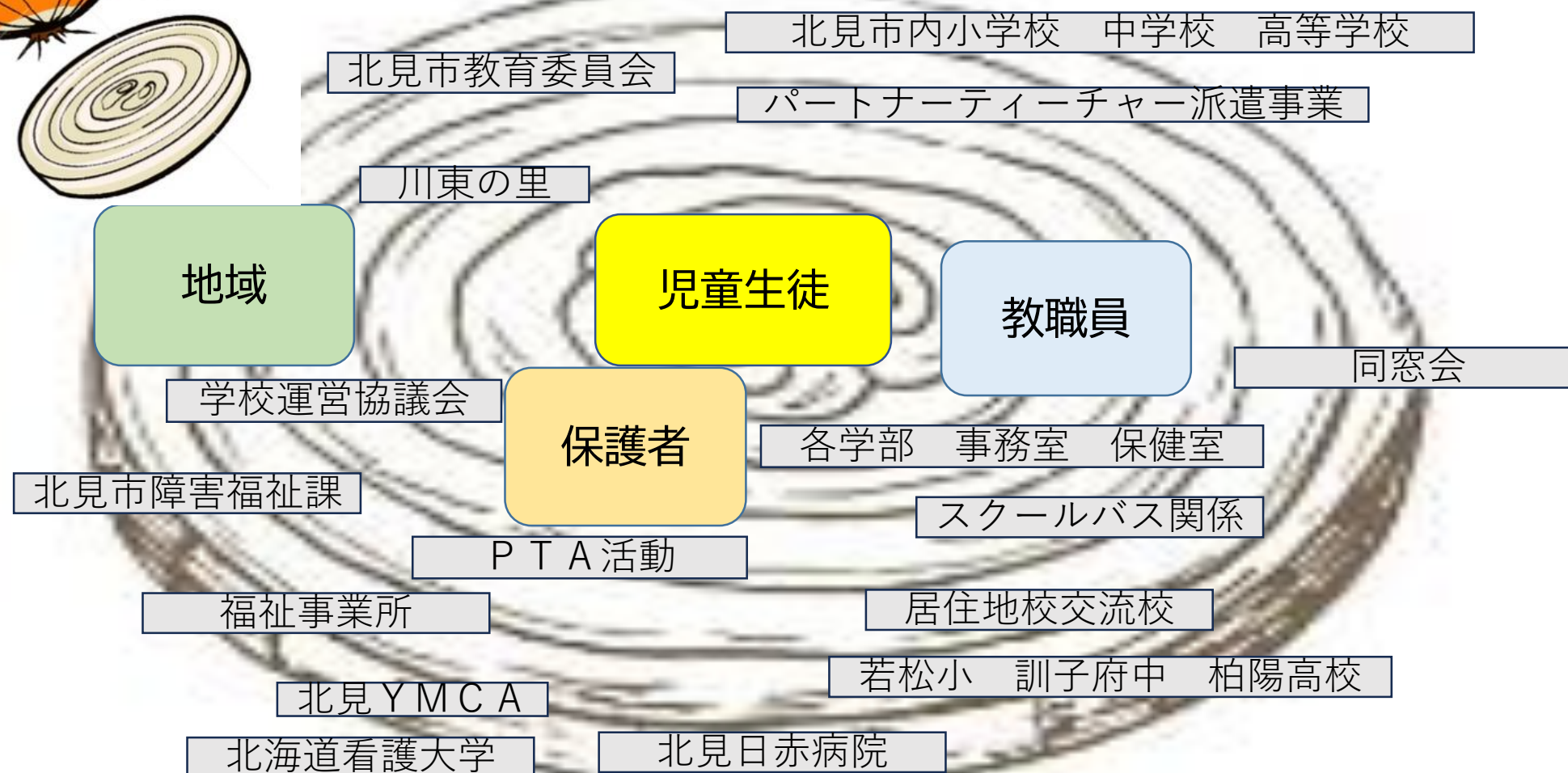




学習者主体の学校をめざして



教育の方針 1

○実態把握と個別の教育支援計画及び個別の指導計画、授業との関連を明確にする。

- ・発達段階に沿った実態把握を心掛け、個別の指導計画（自立活動・各教科）、指導実践に結びつける。
- ・キャリア教育の視点から地域での生活や活動を豊かにするための観点を指導実践に結びつける。

○学習指導要領に則った各教科の指導内容を指導計画を推進する。

- ・学習指導要領の各教科の指導内容を各教科の授業で押さえ、何を学ぶかを明確にできるよう推進する。
- ・自立活動のねらいに沿って、各区分項目に学習内容を重ね合わせた指導を計画・実施する。

○主体的に学ぼうとする授業と授業改善に取り組む。

- ・主体的な言動を引き出すことで学びを導き出す「動いて学ぶ」ことを意識した授業作りに努める。
- ・一人一人の実態に応じ、「どのように学ぶか」を工夫できるよう努める。
- ・主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善に努める。

○言語活動を大切にし、伝え伝わる楽しさを広げる。

- ・教科横断的指導の観点から、すべての学習場面において、必要とされる「伝える力」「伝わる楽しみ」が充実できるように言語能力・コミュニケーションの指導の充実に努める。

教育の方針 2

○他者評価により、できた経験を自己評価につなげる。

- ・成功した経験を大切にでき、地域や保護者、校内において成長を共感できる場面や環境づくりを意識する。
- ・授業反省や学習評価において、「よさ」を認め合う意識づくり。

○地域の人材と資源を教材化した学習に取り組み、適切な事前事後学習をとおして、学びを深める。

- ・地域の人材や地域資源を活用した学習に積極的に取り組む。
- ・学習を経験として終わらせず、様々な学習への関連を明確に取り組めるよう、関連する学習を含めた事前事後学習を計画・実施する。

○一人一人に応じたICT機器の適切な活用を力高める。

- ・ICT機器に触れ、主体的な学びのために個々の実態に合わせて活用する方法を広げていく。
- ・ICT機器のよさを十分に活かし教育効果を高める実践を広げる。

○健康安全に気を配り情報共有を大切にする

- ・一人一人が健康・安全に配慮された教育環境であるように留意する。
- ・健康・安全に関する情報を必要な部署を中心に適切に共有できる体制・習慣を構築すること。

経営の方針 1

○児童・生徒の人権尊重、体罰・いじめを撲滅する

- ・児童生徒ファーストの精神を大切にする。
- ・笑顔で挨拶を心掛ける。
- ・いじめを見過ごさず、早期の組織的な対応を果たす。
- ・体罰、不適切な指導につながる言動を見逃さない職員集団づくり。

○専門性の維持・向上とAPDCAサイクルの実践する

- ・よりよい教育実践を目指し、専門性の向上に向けた研修に努める。また、研修した内容を教職員間で共有できるよう努める。
- ・「何を教えるか」という目的を明確にした授業改善を実施する。
- ・学部、学年、分掌、係で行う反省は、次回どのような案で実施するかまで、具体的に方針を打ち出す。

○保護者や地域との教育活動についての情報共有をすすめる

- ・日常の対話ややりとりをととして、保護者との教育情報の共有をすすめる。
- ・楽メやWebを利用して児童生徒の学習活動を積極的に発信する。
- ・特別支援教育の地域のセンター的役割として、地域や校内のニーズに対応した情報提供を行う。

経営の方針 2

○やわらかい心で児童生徒・保護者を受け止める

- ・保護者の気持ちや子どもの気持ちを受け止める柔軟さと、それを支えるチームワーク。
- ・教師間の情報共有を基本にし、保護者・地域（関係機関）との連携協力を深め、学びの場にふさわしい教育環境作りに努める。
- ・教職員間では、新奇歓迎や強みに応じたフラットな気持ちを持ち合うことを大切にする。

○初任者・転入者に対する適切な研修を計画・実施する

- ・初任段階研修において、実施している内容に加え仕事をする上で必要とする基本的事項を加えた研修を計画・実施する。また、転入者等についても必要な研修を計画・実施する。

○校務の効率化と情報共有及びICTの効果的活用

- ・年度途中であっても校務の効率化が図られるよう工夫改善を積極的に取り入れる
- ・校務におけるICT活用が必要最低限に整うよう、研修の計画や機器の更新等を積極的に行う。

○地域、保護者、学校で取り組む実地的な防災教育

- ・より現実的な災害・事故を想定した対応を検討する。
- ・災害が起きた後の対応を保護者や地域と共有できるようにする。

経営の方針 3

○環境の整備（整理整頓、清掃）節約に心掛ける

- ・使用電気代等節約が可能なものについては、適宜使用量に関する情報を校内で周知し注意を促す。
- ・損壊が発生した状況や修繕等の状況を校内周知する。
- ・教務と事務が連携し、効率的な事務処理に努める。
- ・全校的な視野に立った、学校予算の計画的かつ適切な執行に努める。
- ・教室、特別教室、職員室等の整理整頓に心掛ける。

○教職員の心身の健康維持に気を配り合える

- ・お互いの立場や役割を理解し、尊重する中から職能を高め合ったり、協働して業務を推進する。
- ・「話しやすさ（双方向コミュニケーション）」のある環境づくりを各部署・部署間で意識していく。
- ・人に優しい職場づくりの第1歩として、「人を気遣うこと」を意識する。

○服務規律、衛生面、身だしなみに注意する

- ・校内諸規程に基づき、不祥事の防止と服務規律の保持に努める。
- ・注意喚起や研修会をとおして、一人一人の自覚に働きかける。

働き方改革E-Smileプロジェクト: やりがいのある仕事をとおして、一人で悩まず、協力・協働を基に業務改善が図られていく ※個々のタイムマネジメントは必要。



令和4年度の働き方改革E-Smileプロジェクトから作成された「働き方改革のガイドライン」については継続を原則とし、各部署でのアイディアをもとに改善する。

令和6年度研究主題 「子ども理解にはじまるわかりやすさを追究した授業づくり」